

各務原市移住・定住推進PT会議（第1回）議事要旨

1. 第0回PT会議の議事要旨の確認

資料1 各務原市移住・定住推進PT会議（第0回）議事要旨
（田中副市長）

市民の移住・定住については、対外的に発信するものになるため、深い部分まで掘り下げて具体的に考える必要がある。そのためには、各自が意見を自由に出していくうえで、自分なりに解像度を高めていってほしい。初めは抽象論になると思うが、自分が出した意見が雇用につながるのか、シティプロモーションにつながるものかなど、最終的に落とし込まれる施策を意識してみしてほしい。

出た意見を政策に落とし込むのは事務局であるが、その過程をシミュレートすることはいい経験になると思う。

2. 事前宿題の意見交換

資料2 各務原市移住・定住推進PT会議（第1回）レジュメ
（田中副市長）

他のメンバーの意見を聞きながら、自分の意見との共通点や、異なる部分を見つけてほしい。出てきた意見の中で、各務原市の強みと弱みをカテゴライズしていきたいと思っている。若い世代が感じる「違和感」を聞きたいと思っている。

今回の立候補者の出身や現在の環境は様々。その様々な立場で感じる違和感がとても大切。

行政経験が長くなるごとに、経験値が高くなる分、少しずつ凝り固まった考え方になってしまふ。本来は今の時代に合っているのか、正しいのかを常に疑う必要がある。若者と対話も重要。

PTには自由に意見を出してもらい、予算や根拠といった観点ではなく、市長が仰った「尖った意見」を自由に出して欲しい。政策論として結実させることを執行部が責任を持って行う

市役所の部署が違っていても、目的が一緒のものがあるはず。例えば結婚に関して、既に各務原市には結婚相談所がある。ちゃんと機能もしているが、単品。市外の人が来るための必要なインセンティブを考えてみると、例えば雇用が必要となると産業活力部に投げかける必要が出てくる。雇用、福利厚生、住居など、既に単品では行っている施策がある。既存の事業を有機的に結合させたとき、新しい価値観が生まれる。そのような発想をぜひ出していきたい。

PTで出た意見で、最終的に全国展開を目指す。ターゲットは全国であるため、積極的に発信していきたい。可能であれば1~2事業を半年後ぐらいに方向性や予算化の話を詰めていきたい。

3. プロジェクト会議の進め方について

資料2 各務原市移住定住プロジェクトチーム第0回レジュメ

このレジュメは、ガイドラインであるため、当面の間は田中副市長が作成する。

各回で出た意見と、意見を踏まえた議論内容を文書化する予定。レジュメはあくまで補助輪。

10名という想定より多い人数のPT会議となった。会議の趣旨を踏まえ、必ず1人1人が話すと

ということをお願いしたい。議事録で各自のコメントを見返して、自分の考え方との共通部分と違う部分を整理してほしい。

次々回5/18のPT会議の宿題というわけではないが、改めて各自が考える各務原市の魅力を3つ、弱みを最低3つ自分の言葉で考えてきてほしい。3つにした理由は、優先順位を付けやすく、理由付けが明確化されると思ったため。

プロジェクト会議で大切にしたいのは、正しいことや完成度を競うことではなく、各務原市の魅力と可能性を自分の頭で考え、自分の言葉で語り、他のメンバーの意見を聞きながら解像度を上げていただきたい。ヒントとしては、何かと何かをつなげていく、もしくは何かをそぎ落としていくという考え方である。

毎回副市長が出席できるわけではないため、1人リーダーを決める。定形業務はないが、会議中に対立した意見が出てきた際に、調整する役目。

4. 参加メンバー自己紹介

資料3 プロジェクトメンバー名簿

(自己紹介と抱負を話した。以下、概要。)

- ・学生時代にマイナーなスポーツを広めるような活動を友達と行っており、例えばホッケースタジアムの活用について、もったいないと感じていた。
- ・健康増進事業に携わっているが、市の職員だけではできない部分がある。ライザップやコパン、アクトスなど外部と連携して市を盛り上げていきたい。
- ・各務原市に生まれて、就職を機に各務原市を離れ、また戻ってきた。都会は便利だが、戻りたいと思ったのは、自然の豊かさなどに自分の価値基準があったように思う。各務原市はラーメン屋がたくさんあって、個人的には大きなメリット。
- ・美濃市に住んでいたが、子どものときに見た各務原市の開けた景色の印象が大学生まで残っていた。現在は商工振興課でワークライフバランスのワークの部分に焦点を当てているが、働くとなった場合に、必ずライフが関わってくる。その部分の支援の提案が企業へできておらず、歯がゆく思っていたところに、PT立ち上げの話があり、立候補した。
- ・前職で全国のインフラ整備に関わる仕事をしていたが、地域密着の仕事がしたいと思い、自然と調和がとれている各務原市を選んだ。様々な規制の中で有効活用されておらず、もったいないと思う駅や土地がある。
- ・前職で、地方の面白い人や活動取材することが多くあった。その人たちは尖ったことをやっていて面白いなと思ったことが多かった。自分も面白いことをやりたいという思いがあり、このプロジェクトに立候補した。
- ・学芸員の募集をしていた各務原市をたまたま見つけて、入庁した。各務原市には歴史の魅力が溢れるものがたくさんある。移住定住プログラムの中に加えたいと思い、立候補した。
- ・市役所の仕事は、人のつながりとかかわりを生み出して、地域全体を盛り上げ、動かしていく仕事であると考えている。各務原市の魅力に気付いていない方々にアプローチをすることで、各務原市の良さを発信していきたい。

- ・ 普段は市営住宅の管理や景観に関することの業務を主としている。空き家の利活用事業は移住定住の促進を主目的としており、移住・定住促進PTの募集を見て、空き家の観点から何かアプローチできるかもしれないと思い、興味をもって立候補した。
- ・ 市出身で、大学は京都。帰省で地元に戻ってきたときに、道や建物が年々便利に変わっていくところに魅力を感じ、入庁。水は生活に直接影響を与える要素で、PFAS関係で不安を市民に与えてしまったということを痛感している。不安払しょくに向けて市内での広報に努めているが、市外や全国へ向けたアピールができていない中で、PTに新たな視点を取り込みたいと思い、立候補した。

次回プロジェクト会議（第1回）：5月18日9:30～ 於 本庁3F-1会議室